

■開催日時：令和3年1月19日(火)午後7時00分～8時00分

■開催場所：オンライン開催（Zoom）

■出席委員：熊谷委員、古林委員、櫻井委員、佐藤委員、柴委員、久松委員、平林委員、馬淵委員、三好委員、森谷委員<以上10名、五十音順>

■事務局：小松センター長、鈴木副センター長、妻屋福祉活動推進課長、利光地域福祉推進係長、塚澤主任

1. 報告事項

1. 業務報告について

事務局より、12月の主事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談に対する質疑応答とした。

委員：社会教育委員会の「地域学校協働活動」のあるべき姿について協働の可能性があるかと思うので説明を聞きたい。

事務局：地域学校協働活動は国から降りてきて、西東京市ではあるべき姿という提言書を教育長へ答申を出している。市民活動団体の中間支援組織としてゆめこらぼの位置づけが大切だということで、ゆめこらぼのセンター長として社会教育委員会の委員のメンバーとして昨年7月から入っている。学校という場を中心に市民や市民活動団体と一緒にこの地域で子どもたちの放課後や夏休み、日曜日などを豊かにしてこうということだ。西東京市としては次年度以降、小学校と中学校で一校ずつモデル校をつくり地域学校協働活動を進める予定だ。しかし、西東京市はオンラインの会議設備が整っておらず、会議が中止となっており予定通り行くかどうか微妙になっている。教育委員会としてはゆめこらぼと一緒に地域の方を巻き込んで進めていきたい意向である。

委員：とても大事なことなので、今後も報告ならびに必要な応じて運営委員会の中でも協議してもらいたい。

委員長：資料1の誤字「正」を「性」に修正をお願いします。

2. 1月以降の実施事業について

事務局より、1月以降の実施事業について質疑応答とした。

委員長：NPO市民フェスティバルでは会場での展示が中止となった。

委員：NPO市民フェスティバルは3月末まで発表の場とするとあるのはホームページで見られるということか。

事務局：そうだ。

2. 審議事項

1. 前回の会議録について

委員長：意見がなければ確定稿とする。

3. 協議事項

1. センターの業務執行に関する事項について

事務局より、令和3年度西東京市市民協働推進センター運営委員名簿(案)について説明があった。

委員長：引き続き調整をお願いします。

2. 新しい生活様式の中での協働推進のあり方について

委員長：新しい生活様式の中で中間支援組織がどのような形で後押しできるか、他の中間支援センターがどのように動いているかなど伺いたい。

委員：新しい生活様式の中ではオンライン環境の中でメンバーが情報交換や、発信をするために利用しているので、その部分を応援している。オンライン環境を整えることや使い方などをボランティアで応援する形で仲介しているところもある。コロナが収まらない中でも全く活動が出来ないというわけではなく、気を付けながら活動していくために安心した場の確保、安心して利用できるものを提供したり、情報を共有したりしている。また、分散して開催するなどの工夫をしていることもある。活動上の資金に困っているところへはクラウドファンディングを仲介することや、応援者を募るなどの方法を周りへ伝えている。在宅勤務でできることはないかという問合せも入っている。書類の作成や翻訳、冊子のデザインなどオンラインで協力してもらいたいことを募集しているところもあるのでそのような情報発信もしている。

委員長：自分の活動している団体も含めて困っていることや活動していること等を聞きたい。

委員：特別養護老人ホームに務めているため感染に対して毎日緊張の連続だ。オンライン面会は行っているが、入所者はストレスを抱えている。現在はボランティアさんにお手紙を書いてもらったりしているが、今後どのような形でボランティアさんに入ってもらえばよいか。何かアイデアがあれば聞きたい。

委員：ビデオメッセージなど動画をホールで流したりしている。曲を聞いてもらったり、子どものパフォーマンスを流したりしているところもある。

委員：感染症には気を付けながら、今年度は先が見えなかったため、会費も取らず活動を休止した。来年度はこの状況がすぐには変わらないと思えないので、オンラインを活用した方法で活動するしかないと考えている。トークルームの開催などを検討している。リアルで開催するにあたり、場所の二酸化炭素濃度を測ることにより換気が充分にできているか測定できる機械がある。換気は目で見てわかりにくいので、利用して安心感が得られるような機械を導入したり、貸出しを考えても良いのではないかと。オンライン合宿をした際、川柳を募集しグループフォームで投票、クイズ大会などオンラインでも世代を超えて楽しめる工夫ができたので、その情報を発信出来たらよいと思った。

委員長：二酸化炭素濃度を測る機械は可視化出来てよいと思う。

委員：防災を中心に活動している団体だが、今年度は集まっての活動が難しい。オンラインの中で動画の配信などみんなで楽しみながらできることを試みている。オンラインでのお茶会をやりたい。

1 委員：生活困窮者支援は、これまではどこかに働きに行く形の就労支援だった。しかし、外に出る
2 ことが出来ない中で、就労支援は内職のようなマッチングを運用している自治体があるよう
3 だ。緊急事態の状況下の中で平常時の生活はそもそも無理である。持続可能な方法で支援者
4 がつぶれないようにどう持続するかが必要だと思う。学校の中では推薦で決まっている学生
5 には入学前教育を始めるにあたりオンラインで準備を勧めている。Zoom のホワイトボード
6 機能を利用し、どういう基準で大学が4年後学士の学位を授けるのかという教育では文字で
7 読み取り絵に表現してみるなどのキックオフを考えている。その作品を作っているプロセス
8 を録画し早回しをして可視化すると面白いのではないかと、今回試みる予定だ。

9 委員：新しいご利用者様や遠方のかたへオンラインを利用した見学を考えている。事業所すべてに
10 webカメラを設置しており、24時間利用者の家族はいつでも施設中の様子が見られるように
11 している。それを今後どう活用するか検討している。常にwebカメラがあることにより働く
12 側でも良い意味での緊張感もあり、もっと活用できないかと思う。オンラインが今後活用し
13 ていく物として中心となっていくので、外に出て働くことが出来なかった方たちにとって新
14 たに働ける場が出来る可能性があるのではないかと思うので、つなぐ役割も考えていき
15 たい。ゆめこらばに仕事の情報なども集まるような形にしていくなど就労のネットワークづく
16 りも期待できるのではないかと思う。

17 委員：外来種の草を取り除くことや川のごみ収集をしているが、どちらも目に見えることが成果と
18 しての達成感がある活動をしている。ところが今年度は活動ができないので、会の由来を
19 SDGs の環境をとり入れた絵本を製作したが、NPO 市民フェスティバルの展示も中止となり
20 配布する場もなくなった。どうしたら良いのか困っている。戸外に出て成果の出る活動が出
21 来ないことに不満が出てきている。来年もこのような状況が続いたらどうしようかと悩んで
22 いるので、何かアイデアがあれば教えて欲しい。

23 委員長：今までと違った活動で挙がってきた成果物を、どういう形で配布するかなど協働推進の中で
24 できると良い。

25 委員：特に恵まれた環境というわけではないがオンライン、オフライン合わせて活動はしていた。
26 全員が集まることが出来ないので、会場を分けてそれぞれの会場をオンラインでつなぎ、
27 100人規模の集まりもやってきた。インカムを利用し距離を保ちつつ集団でのイベントの実
28 現もした。ゆめこらばは中間支援としてハブになっているので、発信をすることが重要にな
29 ってくる。どういう形で発信をするのかということだ。今までは参加団体のイベント情報な
30 どを月に1回配布することにより役割を果たしていたが、イベントそのものも少なくなり、
31 紙媒体では今後配布方法なども課題となる。そこで、ホームページをもっと有効活用したら
32 よいのではないか。活動団体にその内容を作成してもらうという形でホームページを充実さ
33 せていく。その中で団体同士がつながることや自分たちの活動の意義などをもっと他の人に
34 知ってもらうことは重要な成果だと思う。活動内容が伝わるよう各々の団体に則したものを
35 用意してもらい、ホームページに公開することで活動団体の支援になるのではないか。市民
36 協働推進センターはそれぞれの行政区域にある。他地区の推進センターとつながりその活動
37 団体を分野ごとに分けテーマを設けて、他の地域の団体とオンラインでつながってみるのも
38 興味がある。オンラインは移動が困難な方や聴覚・視覚障がいがある方ともつながり、あ
39 う可能性があるため、そういう方たちにも活動を伝え、一緒に参加してもらえようような情報発
40 信をし、地域を一緒に良くしていくことが出来るのではないかと感じている。

- 1 委員長：ホームページの有効活用と中間支援組織間での Zoom 連携、オンラインだからこそその障がい
2 者の方向けへのメリットなど、提案として挙げられた 3 点はどれも感銘を受け、可能性を感じ
3 じる。
- 4 委員：活動してきた人の意見は説得力があると感じた。NPO 市民フェスティバルもある程度想定し
5 て動いていた事をいろいろな人へ知ってもらえるチャンスでもある。ゆめこらぼのホームペ
6 ージを今後どのように充実させるかはとても大事なことだと思う。他の自治体と Zoom でつ
7 ながるのは面白そうだし、他地域とのやり取りで団体も活性化していくこともあり、良いの
8 ではないかと思う。
- 9 事務局：貴重な経験値やアイデアをありがとうございました。予算がない中でもできることがあると
10 感じた。次年度どのような形で中間支援組織としてより豊かな地域づくり、まちづくりがで
11 きるのか考えていきたい。
- 12 委員：中間支援センターも市民に支援された方が良い。

14 4. その他

- 15 1. 第 12 回 NPO 市民フェスティバルについて
16 事務局より、展示会場中止の説明があった。
- 17
- 18 2. 次回運営委員会日程について
19 日時：3 月 16 日（火）19 時～20 時
20 会場：オンライン開催（Zoom）